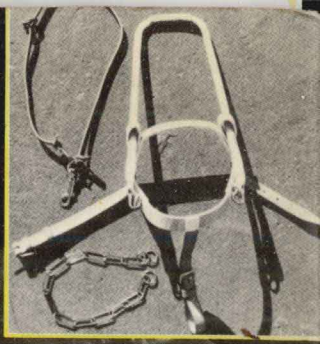
ドキュメント 盲導犬

●自立への苦闘と愛の記録●



荻野 功

蝸牛社

盲導犬は、盲人と歩いてはじめて盲導犬となる
盲人がいなければ盲導犬はただの犬にすぎない
盲導犬が輝いて見えるのは
盲人が光り輝いて見えるときである

盲人が自分自身を磨いて光を出せば出すほど
盲導犬も光り輝く

■おぎの　いさお
昭和32年6月15日横浜に生れる。現在、関東写真実技専門学校に在籍。昭和56年より盲導犬のテーマを撮り続け今日に至る。
■現住所
横浜市旭区中希望が丘55　〒241
TEL　045(361)8443

ドキュメント盲導犬
一九八二年八月二五日初版第一刷
定価一八〇〇円
写真・文　荻野功
発行人　荒木清
発行所　蝸牛社
東京都練馬区南大泉二-一-三五
〒177 ☎(〇三)九二四-四九一一
郵便振替・東京九-六二七六八
印刷・製本　川嶋印刷
ISBN4-905579-67-4　C0034¥1800E

ドキュメント盲導犬

写真・文　荻野ヤカ

序文

財団法人東京盲導犬協会理事長　塩屋賢一

最近、アイメイトの理解が浸透してきたとはいうものの、実際には二〇パーセント位ではないでしょうか。

言葉を知っていても、実際に見たことがないという方が大部分ですし、「犬だから、咬む、吠える、汚すのは間違いない」と頑固に思い込んでいる人の方が多いようです。全く知らない人も大勢いるというのが現実の状況です。

それは何故でしょうか？　国民性とか、日本人の習慣とか、農耕民族で家畜とのかかわりが少なかったとか、いろいろ考えられはしますが、卒直に言うと「犬」と見ていることが最大の「原因」だと思うのです。

アイメイト使用者は「私たちふたり」という表現をします。又、会話の中で「この子が……」と言います。それはアイメイトが、使う人の分身となっていることの証しです。使用者は、自分の体の一部であり、目であると考えているのです。ある人は「私の目は膝の所にある」と言います。「ふだんは目が見えないことを忘れていて、子供の学校からお知らせが来たりした時に、ああ、私は見えなかったんだと思う」と話す人もいます。御主人は白杖で、奥さんはアイメイトを使っている全盲の御夫婦の会話ですが、「あの道は、歩くのが恐いね」と御主人。「見えない時は恐かったけど今は平気よ」と答える奥さんに、御主人はいぶかしげに「君、何時から見えるようになったの？」と問いかえしました。奥さんも一瞬不思議そうにしてから、「ああ、フフフ、クリナムと歩くようになったら、恐くなくなったのよ」。私はこの会話をほほえましく聞いていました。

使っていたアイメイトを亡くした時、「再び失明したと感じた」といいます。こうした人と犬との深い信頼関係の二人五脚の精神的なものを理解していただければ、「犬だから…」とか「犬はお断わり」という冷たい言葉は消えるでしょう。ペットではないのです。

アイメイトは視覚障害者の目であるのです。

このアイメイトが誕生するまでには、大勢の善意と努力が結晶しています。良い素質の候補犬を得るために、両親を選んで計画繁殖し、離乳した子犬を生後二カ月～生後一年位まで飼育奉仕者にお願いして育てていただきます。これは情緒の安定した犬にするためです。

その後、訓練に入りますが、指導員の心血を注いでの訓練は、あらゆる道路状況に対応出来るように、繰返しいろいろな場面で行われます。最後は指導員が目隠しをして繁華街を歩いてテストをします。誘導が完璧となると、申込みをしている盲人に連絡をして四週間、泊りこみの歩行指導が始まります。

犬をどのようにコントロールして使うか、どんな時にも使いこなせるように指導するのですが、これは視覚障害者の安全を守る大切な仕事ですから、指導員はこの期間、腕時計のベルトがぐるぐる廻る位、体重が減少するような緊張の毎日です。歩くことだけでなく、日常生活の指導もします。障害者が社会復帰して、堂々と暮せるようにとの願いをこめて――。東京盲導犬協会のモットーは「視力はなくても、視野の広い、明るく積極的な障害者になる」ことです。

こうして、アイメイトを使うようになった人は一様に明るくなります。女性がファッショナブルに変身するのにも驚かされますし、単身でアメリカに留学した人、これからスペインに勉強に行こうという人もあり、それぞれの世界がアイメイトによって広がっています。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

しかし、受け入れ側には、いろいろな問題があります。まず犬好きの人たちは、アイメイトが視覚障害者の誘導という重大な仕事をしているにもかかわらず、「まあ、可愛い！おりこうね」と頭をなでたり、中にはお菓子を与えようとして、仕事の邪魔をします。犬嫌いの人は「キャア！」と必要以上に大声を出して騒いだりします。酔っぱらいにアイメイトが傘でこづかれたり、煙草の火をつけられたり、耳をひっぱられたりすることもあります。アイメイトがしつけの悪い子供よりずっとマナーの良いことを知らずに「犬は入れません」と素気なく入ることを拒まれたりすることもよくあります。

アイメイトは視覚障害者の命を預るわけで、仕事中のミスは、たとえ小さなミスでも見逃すことがたび重なると、しつけがくずれ、仕事がずさんになって、使っている視覚障害者が危険にさらされます。それでミスは、その場で矯正するわけですが、中には「あんた、犬に連れて歩いてもらっているのに、そんなにいじめちゃだめだよ」などと言う方がよくあります。いじめているのではなく、安全のためによりよい仕事をしてもらうために、教えていることを了解していただいて、そうした場面に遭遇した時も、そっと見守っていただきたいと思います。就職、職種の撰択、結婚、住居、教育等にわたって、視障者の抱える問題は数も多く、深刻ですが、せめてアイメイトについての理解だけでも充分にしていただけたらと希っています。

こういうアイメイトの世界を、この写真集は非常に卒直に、真剣に、丁寧に追っています。この写真集を通して、一人でも多くの方が、アイメイトの真の姿と役割を知ってくださることを希ってやみません。

荻野さんの写真は、情景のスナップに止まらず、障害者に対する思いやりのこもった写真であると思います。

目次

序文――塩屋賢一 2
I 盲導犬誕生 7
II 盲導犬協会 17
III 避妊・去勢手術 33
IV 盲導犬訓練 41
V 歩行指導I 57
VI 歩行指導II 77
VII 盲導犬ブッチとともに 109
VIII 素晴しき盲導犬 133
IX 永遠の友 155
X 盲導犬よ、安らかなれ 169
あとがき 179

I　盲導犬誕生

飼育奉仕者の家庭で暮らすジュディ

1981年10月25日、真夜中から明朝にかけて6尾の小犬を出産した

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

小犬の排便の後始末をする母犬

小犬は飼育奉仕者の愛情を育み、盲導犬としての性格を養っていく

この小犬が、盲人の目となり友となっていく。

盲導犬にはどんな犬もなれるというものではなく、盲導犬としての適性をそなえた小犬を繁殖させることから始められる。

そのためにまず優秀な種犬が選ばれ、この犬は小犬の繁殖にのみ専念する。種犬といっても盲導犬としての訓練をうけ、その結果、性格や訓練成績がすぐれているものを盲人に渡すことなく繁殖犬とする。

現在、東京盲導犬協会では財政面、敷地、人手不足などの問題をかかえているため、やむなく奉仕をして下さる方々に、小犬の飼育と繁殖をおねがいしている（これらの方々を飼育奉仕者という）。

犬は飼い主に似る。盲導犬となる小犬も飼育奉仕者に似るのである。従って盲導犬となりうる犬に育つか、育たないかは飼育奉仕者の性格、ものの考え方、愛情、家庭状況などによって決定されるといっても過言ではない。

飼育奉仕者には二つのタイプがある。一つは種犬を飼い、出産と生まれた小犬を二カ月間飼育するもの。もう一つは生後二カ月の小犬を一年間飼育するもの。

現在、東京盲導犬協会において前者三名、後者三〇名の飼育奉仕者がいる。

塩屋氏（現東京盲導犬協会理事長）は語る。

「飼育奉仕をしたいという方々からの申し込みは絶えない。ありがたいことだ。しかし、やたらどの方にも飼育をお願いするというわけにはいかない。

一年と二カ月たって協会へ戻ってくる犬を見ると、一目でその犬の育った家庭状況がわかる。

素晴らしい、卒直で利口な犬に育って戻ってくれば、これは喜ばしいことだ。しかし、性格がひねくれ、どうしようもない状態になって戻って来た犬は盲導犬には適さない。

盲導犬には、人間の命がかかっている。だからただの奉仕だけではすまされない問題がある」

東京都池尻に住む飼育奉仕者の加藤雅子さんは、種犬を預かり、小犬の繁殖をなさっておられる。

加藤さんのお宅にいる種犬の名は「ジュディー」。「ラブ」で色はイエロー。年齢六歳。今までに出産回数六回、合計三九頭の小犬を出産している。

加藤さんは語る。

「ジュディーが小犬を出産するときは、昼夜を問わず見守っています。出産する時刻はきまっていないようで、朝からの時もあれば夜中からの時もあります。

一度、ジュディーが夜中に出産を始めた時、私は犬舎に

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com